

るが、さらにそれらの背景となるべき児童の考え方、問題意識をしっかりと把あくして計画を立て、実践へのパイプを通す仕事を忘れてはならない。このことは小学校のみならず、広く家庭科教育の課題解決のため、大きな示唆を与えるものと考え、児童の家庭生活に対する意識を調査した。

2. (1) 調査対象 大都市・中都市・農村をそれぞれ2校ずつ計6校。各学年50人とした。

(2) 調査方法 ①予備調査 家庭に対する希望、衣食住の生活に対する考え方を自由記述させ、問題をしばって、本調査の項目を選定した。

②本調査 各学校の各学年に項目を指示して調査した。1校だけ自由記述と項目指示の両方を併用した。

3. 物質偏重の社会であるようになげかれているが、子どもたちの家庭に対する意識は、小学校の段階では、どの地域も、きわめて健全なものであり、民主的な家庭の建設に努力しようとする姿が見られた。

E-25 家庭科教育のための基礎資料の研究 —児童の家庭生活に対する意識について—

文部省初等教育課 鹿内 瑞子
大宮市立指扇小 ○新井 包子

1. 健全な家庭の建設、よい家庭人の育成をめざす家庭科教育が、実践教科として人間形成にはたす役割は大きい。わたしたちは家庭科教育の教育課程における位置と役割を十分に理解し、その目標を達成しなければならぬ。教材の研究、指導法のくふうなどはもちろんであ